

(熊本県立北稜)高等学校 平成26年度学校評価計画表

1 学校教育目標
「教育は人なり」の理念のもと、「率先垂範、師弟同行」を旨として、全職員相互の研鑽及び指導法の創意工夫を図り、一人一人の生徒の健全育成に邁進する。
1 伝統ある校風の継承と創造 2 特色ある総合高校づくり 3 学力の充実と個に応じた進路指導 4 教育環境づくりの推進 5 人権教育の推進 6 安全教育の推進 7 地域社会から信頼される学校づくり

2 本年度の重点目標
1 愛情ある生徒指導 2 基礎学力の定着 3 個に応じた進路指導 4 美しい環境作り 5 安全教育の推進 6 家庭・地域社会との連携強化

3 自己評価総括表							
大項目	小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題	
							評価項目
学校経営	職員の資質向上	教科指導力の向上	学習意欲を喚起する授業展開を工夫し、基礎学力の定着を図る	研究授業や公開授業を毎学期実施して、相互に研鑽する。参観を義務づける。	A	本校での公開授業週間では、多くの先生方が参観をされた。また、近隣の中学校や高校での公開授業にも積極的に参加した。	
		生徒指導力の向上	生徒一人ひとりの理解に努め、人格形成を支援する。	中学校との連携強化、生徒情報の共有、カウンセリングマインドの養成。	B	担任をはじめ各学年で愛情を持って粘り強い指導ができています。しかし再・再々検査に該当する生徒が少なくない現状であるので、生徒自身が納得し理解して対処できるさらなる説明も必要である。	
		保護者との信頼関係の構築	保護者と積極的にコミュニケーションをとり信頼を得られる教育実践を使命感を持って行う。	課題を先送りにせず、迅速かつ組織的に対応する。特に配慮を要する生徒には個々に応じた誠実な対応を心がける。	B	進んで挨拶できる生徒が少しずつ増えているが、まだまだ実践できていない。生徒も職員もお互いが率先して気持ちの良い挨拶をより心がけていく。	
	開かれた学校づくり	保護者・地域住民との連携	学校行事に保護者等に多く参加してもらう手立てをする。地域からの要請にできる限り応じながら、学校の取組を理解してもらう。総会・学年総会等の出席率70%以上を目指す。	・学校の行事や学習の成果などについて、ホームページ上のブログを毎日更新する。 ・農産物の販売や奉仕作業など、地域住民に生徒の活躍する姿を見ていただく機会を増やす。 ・田んぼアートの取組	A	・ホームページについては、北稜日記の更新は、予定どおり更新できており、来訪者も安定している。 ・農産物の販売・田んぼアート・ボランティアなど地域との連携は取れている。今後は、住民や中学生参加型の企画を検討していく。	
学力向上	学習習慣の育成	基礎学力の定着	北稜タイムを有効に活用し、学習に落ち着いて取り組む雰囲気醸成する。	週末には家庭学習課題を与え、普通教科の学力向上を図る。専門教科でも参観しやすいよう共通主題を設定する。	A	1・2年生は、今年からマナトレに取り組み、朝からの落ち着いた雰囲気スタートしている。3年生は、国・数・英の3教科を中心に取り組み、進路決定にもつながっていると考えられる。	
		学力の向上	個別指導や発展的な学習指導の推進	授業が分からない生徒への対応に積極的に取り組む。欠点科目保持者をゼロに近づける。	・考査前指導、個人指導を充実させる。 ・欠点科目保持者には長期休業中に補講を実施し、理解力の向上に努める。	B	考査前は、各学年を中心に学習会を実施している。欠点者に対しては、夏休みに学習会を行い、個別に指導を行った。取り組む生徒の意欲をいかに出させるかが今後の課題である。
			発展的な学習をしようとする意欲を喚起する。	・土曜学習会や模試・検定試験に積極的に取り組ませる。	B	検定については、各係からの呼びかけに対して積極的に受験しようとする意欲が見られる。その後の取り組みを合格につなげていくことが今後の課題である。	
進路指導	進路意識の啓発	進路の早期決定と目的意識の啓発	各学年・学科の連携と継続した進路指導を展開する。	・進学ガイダンス、職場見学、インターンシップ、オープンキャンパス等に積極的に参加させる。	B	くまもとお仕事探検フェア等の参加計画や進路セミナー等参加を生徒に促して進路意識の醸成に努め、一定の効果があつたと考える。ただ、系統立てた計画の必要性を考えている。	

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
	進路希望の達成	進路目標実現の進路保障	就職・進学体制の確立と進路目標達成100%を目指す。	・学力検討委員会において情報の共有化を図り、組織として進路指導にあたる。 ・受験対策のため、進路目的別の課外及び個別指導の充実を図る。 ・国公立大学希望者への早期の指導と小論文・面接指導を充実させる。 ・職場開拓を積極的に行い就職希望者の早期決定を確実にする。	B	就職に関しては、就職環境の好転もあり順調に推移した。指導・支援についてもキャリアアサポーターを中心にきめ細やかな対応ができたと考えられる。進学については、今年も公立大学進学者を出すことができた一方で、一般試験受験者や医療看護系志望の生徒の不調が目立った。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	清々しい整容	整容指導にかかる継続指導の対象者をなくす。	整容指導に対する統一した意識を全職員が持ち、厳しい中にも愛情を持って粘り強く指導する。	B	担任をはじめ各学年で愛情を持って粘り強い指導ができていた。しかし再・再々検査に該当する生徒が少なくない現状であるので、生徒自身が納得し理解して対処できるさらなる説明も必要である。
		マナーの向上	あいさつや目上の人への言葉遣い・公衆道徳等を身につけさせる。	創立70周年に向け、積極的なあいさつや公共の場におけるマナー向上を機会あることに指導する。	B	進んで挨拶できる生徒が少しずつ増えているが、まだまだ実践できていない。生徒も職員もお互いが率先して気持ちの良い挨拶をより心がけていく。
人権教育の推進	学校全体で取り組む人権・同和教育	人権教育の内容の充実	人権意識の確立を促す。生徒に向かい合う時間の確保	講演会やLHRを通して人権について考えさせる。	B	家庭訪問、面談週間、LHR、人権講演会に取り組んだ。生徒の心に響く内容の構築が課題である。
		職員研修の充実	人権・同和教育に関する研修を通して人権感覚を磨く。また、カウンセリングマインドを養う職員研修を実施する。	人権感覚を磨くための講演会や講話を実施するとともに、研修会への参加を促す。	B	校内における講演会や全員レポート研修、地域で開催される人権集会に参加した。一連の研修について職員の感想を集約し次年度の内容に反映させたい。
		特別支援教育の体制づくり	心身に課題を抱える生徒の支援を行い、学校への適応を促す。	・職員の共通理解のもと、スクールカウンセラーとの連携を強化し、組織的に指導できる体制を確立する。 ・関係機関との連携を強化する。	B	4回の生徒理解研修、支援学校からの巡回指導、SCと校内の担当者との連携など昨年より一歩進んだ。次年度は個別支援計画に基づいた支援体制の充実を目指す。
いじめ防止等	すべての生徒にとっていじめのない安心して生活できる環境の確立	いじめを早期発見できる体制づくり	生徒の変化に対し、職員間で情報を共有する。特に部活動の状況についても的確に把握する。	・アンケートを年に2回実施して、生徒状況の把握に努める。 ・人権教育とリンクさせ、生徒の心にしみる講演等を行う。	B	2回のいじめアンケート、2回の「SNSの活用」など命の尊厳といじめについて講話を行った。理解が進んだ生徒がいる一方、友人関係をうまく構築できない生徒もいる。学校全体で組織的な対応力を高める
		いじめを早期解決する組織づくり	常に最悪の事態を想定し、組織的な対応を図る。	・学年団による情報交換を定例化し、管理職に報告する。	B	いじめなくそう委員会による「いじめ防止宣言」や月に一度の情報交換会を開催し、いじめを許さない体制づくりを進めることで早期発見を目指す。
安全管理	学校の安全と危機管理の徹底	教職員の共通理解	安全教育・安全管理体制を確立する。また、不測の事態に備えた対応について理解させる。	・安全(防犯)教育・防災教育を実施する。 ・教職員の研修会を実施する。	B	避難訓練年間2回実施(地震・火災)その際、消火器、室内消火栓の取り扱い方法の実演を行う。職員心肺蘇生法研修、AEDの使用方法和共に実施。全職員の8割の参加を目標としたい。
		実行ある安全管理マニュアルの策定	施設設備の点検整備と教職員による校舎内外の巡視	・安全管理マニュアル(救急対応等)の理解と周知を図るとともに、定期的な安全確認(安全点検)を行う。	B	安全点検学期に1回実施。各職員掃除区域の点検を行い、危険、破損、故障している場所の確認をした。その後、補修を行っている。点検項目の見直しと精選が必要。

4 学校関係者評価

(1) 指導全般について

- ① 授業参観、生徒の実践発表、学校行事を通して、生徒達が日々成長している姿がうかがえる。「わかりやすい授業の創造」のために苦勞されていることが分かる。小学校入学時には、成長度にかかなりの差がある。それを、高校まで解消されずに引き継がれている。学校の自助努力だけでは難しい部分もある。
 - ② 各項目で評価されている自己評価に厳しすぎるところがないか。外から見ると先生方がしっかり指導されている部分も多いと感じる。
 - ③ 生徒の発言のなかに、自己肯定感を否定するようなセリフをよく聞く。これは、自らの成長を阻害していることに気付かせて欲しい。また、先生方にもポジティブな言葉を使って指導して欲しい。
 - ④ 礼儀の大切さを指導して欲しい。礼儀は「あいさつ」から始まる。先生方にも率先垂範をお願いしたい。
- (2) 生徒募集(魅力ある学校づくり)に関して
- ① 地元就職の多さ、引いては地域に根付いて、地域に貢献していることをもっとアピールするべきである。
 - ② 生徒の実践発表を聞いて、それぞれに特徴のある学科が1つの学校にある意味を感じる。
 - ③ 各中学校での説明会、ホームページだけでは不足している。その他、効果的なアピール方法を模索するべきである。

5 総合評価

退学者の減少や問題行動等による特別指導に減少傾向などにより、本校の教育活動に対して一定の評価をいただいた。しかしながら、保護者と生徒の関係が複雑化し、これまでの学校側からの支援だけでは、解決しがたい問題が山積している。

生徒のアンケートからは、「学校は楽しいか」との問いに対し、「楽しい」が85%、「あまり楽しくない」が10%、「楽しくない」が4%となっている。また、「授業が分かるか」との問いに対し、「(まあまあ)わかる」が72%、「(あまり)分からない」が27%となっている。このことから、「分かる授業の創造」が本校の最大の課題である。

そのほか、生徒の「自己肯定感」についても40%近くが否定的な感想を持っており、生徒会・部活動・農業クラブ・家庭クラブなどの特別活動を通して自信を持たせることが必要である。

6 次年度への課題・改善方法

進路第一希望の達成が目標である。そのためには、基礎学力の向上と基本的生活習慣の確立が必要である。基礎学力については、これまでどおり、「言語活動を取り入れた授業改善」をテーマとして、授業改善に取り組み「授業分らない」という生徒を10%以下まで下げたい。また、基本的生活習慣の確立については、これまでどおり「整容指導」および「挨拶の励行」を徹底することで、地域からの信頼を得たい。

田んぼアートの取組は、自己肯定感を醸成することにつながっている。もっと業務の細分化を進め、生徒が主体的かつ計画的に活躍できる場面を提供することで、自己肯定感について否定的な感想を持つ生徒を10%以下にする。